



空き地を放ったらかしにしません
連合町内会と管理組合がタッグを組んで草刈り

連合町内会と団地の管理組合が連携して空き区画（空き地）の維持管理を行っている。年2回、草を刈って、虫の発生を防いだり、見通しをよくして防犯効果を高める。団地の景観がよくなると住民にも好評だ。また、管理組合が空き地の所有者や連絡先を把握する仕組みを作っているので、何かあった時の連絡体制も十分だ。

- 内 容 空き区画（空き地）の維持管理
 - ・ 管理組合による草刈り 等
- 実 施 日 通年
- 場 所 杉並台団地の空き区画
- 件 数 約120区画
- 開始時期 平成20年6月
- 実施主体 杉並台連合町内会、杉並台管理組合



取組のステップ



空き地の維持管理を管理組合で

団地には1,027の住宅区画があり、全ての区画が売却されている。この内、住宅が建っていない区画が約200あり、半数は駐車場にしたり野菜や花を植えて利用し、残りは草地の状態になっている。

団地には、団地の財産管理等を行う管理組合があり、空き区画（空き地）の所有者は、維持管理経費として月額1,000円を負担する仕組みになっている。



連合町内会と管理組合が連携して草刈り

空き地を放置すれば、草が伸びて虫が発生したり、視界が悪くなって防犯上問題がある、また、団地全体の景観にも影響する。そこで、連合町内会と管理組合が連携して、草刈りを行うことになった。7月と10月の年2回、シルバー人材センターに依頼している。平成26年は119区画を行った。かかった経費は、管理組合が負担する。

空き地の所有者との連絡が可能

空き地の所有者の把握が難しく困っている団地が多い中、この団地では、所有者が全て把握できるので、何かあった時に速やかに連絡することができる。



工夫していること等

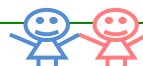
刈り取った草は有効利用

除草の際の搬出費用を抑えるため、刈り取った草は冬まで保管して、団地で行われるどんど祭りに使うなど有効利用している。

課題・今後の展開

- ・ 空き地の有効利用を検討する。

みんなの声



〈住民〉

- ・ 団地内に荒れた空き地がないので、景観がいい。
- ・ 市外に住んでいるので、再々、団地に行くのが難しいが、空き地の管理や草を刈ってもらえるので安心だ。（空き地所有者）

〈主催者〉

- ・ 団地に管理組合がある強みを生かして、これからも、いろいろなことをやっていきたい。（連合町内会役員）